

開催日時：2002年9月24日（火） 13:30～17:00

場 所：大阪会館 Aホール

参加者数：委員 16名（うち1名は部会長の要請により参加）、河川管理者 16名、
一般傍聴者 122名

1 決定事項

次回の淀川部会は、10月29日（火）午後1時30分より開催。11月13日（水）の拡大委員会に向け、最終提言の内容を検討する。

2 審議の概要

委員会および委員会WGからの報告

資料 1-1「委員会ワーキンググループ（WG）について」、資料 1-2「委員会および各部会、WGの状況（中間とりまとめ以降）」資料 1-3「委員会WG結果概要」をもとに、前回部会以降に開催された委員会や他の部会、委員会WGについて説明が行われ、各WGについて意見交換が行われた。

- ・水位管理WGでの問題は、水需要など他のWGにも提案して検討すべき。WG同士が横のつながりを持ってほしい。（部会長）

最終提言に関する意見交換・河川管理者からの発表

資料 2-2「最終提言目次案」、資料 2-3「最終提言素案」を検討するにあたり、河川管理者から資料 4「繰り返す破堤の輪廻からの脱却」を用いて「壊滅的被害」、「浸水の許容」について説明があり、最終提言（治水について）に関する意見交換が行われた。

- ・発表内容は国土交通省の意見ではなく、淀川工事事務所長の意見である。治水の理念転換は淀川から変えていきたい。（河川管理者）
- ・治水に関する理念転換が何をもちたが、中間とりまとめでもWGでも曖昧にされている。多くの人に理解してもらうためにも、明確に表記することが必要。
- ・大きな理念転換をする際には、中小河川との整合性など細部まで短時間につめるのは無理。方向を確認し、課題や今後の進め方を計画の中に盛り込めば良いのではないか。

一般意見聴取・反映方法について

資料 3「これまで実施した意見聴取・反映方法のまとめ」を用いて、現地対話集会の評価・総括、委員会への提言事項について話し合いがあった。

- ・一般意見聴取WGの仕事は、最終提言に一般意見をどう取り入れるか検討することと、河川整備計画を策定、推進する際住民がどう関わるかについて検討することの二つが重要だ。
- ・寄せられた意見をそのまま反映するのは無理。委員が良く読み込み、消化することが必要。

このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を、発言の詳細については「議事録」を参照下さい。